



第14代 郡山市長
品川 万里

はじめに、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昼夜を分かつたずご対応いただいているエッセンシャルワーカーの皆さまに、心から感謝の意と敬意を表するとともに、市民の皆さまには、医療体制崩壊を防ぎ、そして、ご自身や大切な方の生命・生活を守るため、引き続き感染予防に対し率先遂行をお願い申し上げます。

さて、4月執行の市長選挙におきまして、市民の皆さまからのご支持とご信託を賜り、引き続き郡山市の舵取り役を担わせていただくこととなりました。これまでの2期8年間へのご評価・ご叱正と、新型コロナウイルス感染症対策をはじめ、さまざまな課題への間断ない対応、そして何より「誰一人取り残さない」市政運営へのご期待と受け止めております。改めて、その職務の使命の大きさと職責の重さに身の引き締まる思いであり、初心に返り市政運営に取り組んでまいります。

新型コロナウイルス感染症は依然として猛威を振るい、社会生活や経済に深刻な影響を与えています。また、地震や気候変動などの影響による自然災害も頻発化・激甚化しており、長期的な対策が必要となっております。

当然のことながら、感染症危機や災害など日々刻々と状況が変化する事案に対しては、その原因を徹底的に取り除く「ぼん せきげん 正本塞源」(王陽明の言葉)の考えのもと、集中的に、また、将来予見可能な課題については、長期的視点に立った「バックキャスト思考」により、政策を日々検証しながら、「積小為大」(二宮尊徳の言葉)の方法論で、市民や事業者の皆さまが人生設計や企業経営を安心して計

画できるよう見直しを図ってまいります。

地球的な課題である脱炭素社会の実現やDX(デジタル・トランスフォーメーション)化にも積極的に取り組み、国際社会共通の目標であるSDGsの理念を踏まえ、持続可能な「誰一人取り残さない郡山」の実現に向けて、全力を傾注してまいります。

1873(明治6)年に国策事業に先駆け、地元有志が地域の発展を信じて取り組んだ安積開拓から今年で149年目となります。3年後の2024年には市制施行100周年という節目を迎え、同時に、江戸時代の宿場町昇格から200周年にもあたります。

先人の尊いご努力の積み重ねが、今日の私たちの豊かな生活の礎となっています。私たちも、人生100年時代に相応しい社会経済システムの構築に向け、「恩送り」の心構えで、次代を担う子どもたちが、「多様性と調和」が図られた希望に満ちた未来を描けるよう、困難に打ち勝つ「課題解決先進都市」とならなければいけません。

そのためには、連携・パートナーシップが不可欠です。4月16日の日米首脳共同声明においては、日米間で「気候」および「競争力・強靱性」に関するパートナーシップが確認され、また、こおりやま広域圏16市町村においても、「交信」「交易」「交通」によりしっかりと連携を図っております。

今、私たちがなすべきことを、さまざまな世代や立場で、連携・パートナーシップを結ぶ“協奏(コンチェルト)”により全力で取り組んでまいりましょう。そして、「人を自由にする都市」の空気に満ちた郡山をともに目指しましょう！